

<https://www.radionikkei.jp/kansenshotoday/>



2023年3月6日放送

## 「旅行時における感染症対策について」

川崎医科大学 小児科教授 中野 貴司

### はじめに

2009年3月に私はエチオピアの感染症対策プロジェクトに出張した時に、北東部の都市ゴンダールを訪れました。

ゴンダールは、1636年にファシリデス王によりエチオピアの首都に定められ、以後、約200年に渡り繁栄しました。この「ゴンダールの城」には、歴代の皇帝が建設した多くの建築物が残っています。1979年にユネスコの世界遺産に登録され、アフリカに中世ヨーロッパのような美しい城があるということで「不思議の城」と呼ばれています。



(演者撮影：2009年3月)



(演者撮影：2009年3月)

首都アジスアベバからゴンダールまでの距離は遠く、往路はプロペラ機で1時間ほどのフライトでした。復路は朝早くに当地を車で出発してアジスアベバへ戻ったのですが、13時間ほどかかりました。

その途中大陸を横断する深い谷が見えました。大地溝帯（だいちこうたい）、グレート・リフト・バレー（Great Rift Valley）です。



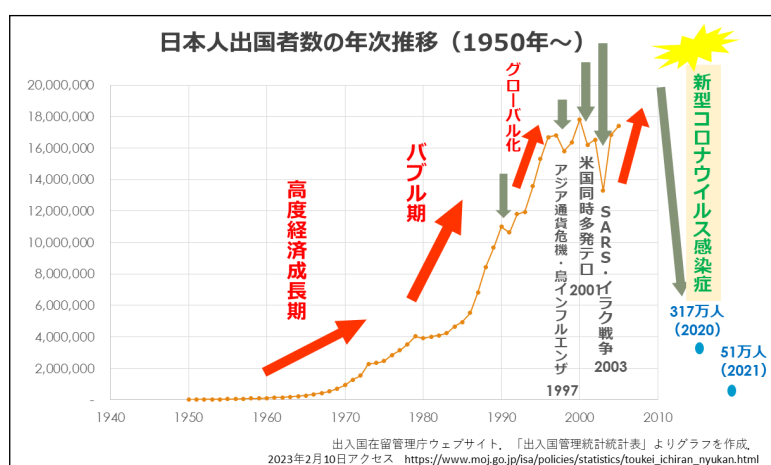
(演者撮影：2009年3月)

アフリカ大陸を南北に縦断する巨大な谷で、プレート境界の一つです。総延長は7,000キロメートルにおよび、幅は35から100キロメートル、正断層で地面が割れ、落差が100メートルを超える急な崖が随所にあります。この大地溝帯は、エチオピアの高原を南北に貫いて走ります。

このように、見知らぬ地への訪問は、思いがけない風景に出会うことができ、旅の楽しみの一つです。グローバル化に伴い、私たちが海外へ出かける機会も大いに増えました。

1950年以降の日本人出国者数はバブルの崩壊、米国同時多発テロ事件、イラク戦争などにより海外渡航者が一過性に減少したこともありましたが、国境を越えて移動する人々の数は右肩上がりの推移が2019年まで続きました。

しかし、新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生により、その流れは断ち切られました。2020年以降、海外渡航者の数は大いに減少し、半世紀前のレベルまで押し戻されました。



そして現在、私たちは新型コロナとの3年間の闘いを経て、2023年は新しい生活への移行が始まった年です。

## 新しい旅のエチケット

国土交通省観光庁のウェブサイトには日本国内で観光地域づくりへの取り組みに活用できる関係省庁の支援施策が示され、全国を対象とした観光需要喚起策「全国旅行支援」が展開されています。このような社会の動きに連動して、国内で旅行に出かける人も増えています。ただし、安全・安心に旅行するためには、「新しい旅のエチケット」に応じた基本的な感染対策を守ることが大切です。



混雑する乗り物や人でにぎわう観光地、アウトドアでの虫刺されやけがなど、旅には思わぬ感染症のリスクが潜んでいることもあります。まずは旅行者自身が感染症に関する知識を身につけ、対策をとることが重要です。手洗いやソーシャルディスタンスの確

保などは対策の基本ですが、ワクチンで防ぐことのできる感染症もあります。楽しいはずの旅行をつらい思い出にしまわれないように、「感染症対策のポイント」を確認したいと思います。自分や同行する者を守り、また、旅先で周囲に感染症を広めたりすることのないようにしましょう。



## 旅行中の感染症例

これまでも、旅行の最中に様々な感染症が発生しています。新型コロナウイルスに関連した集団発生では、2020年2月、乗客2,666名、乗員1,045名を乗せたクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号において712名の感染者と14名の死亡が報告された事例や、同年10月、北海道周遊バスツアーの参加者146名とスタッフ12名のうち、19名が感染した事例などが記憶に新しいと思います。

新型コロナウイルス以外にも、旅行中の感染症は発生しています。2000年9月、シドニー発のクルーズ船で、インフルエンザが集団発生しました。2018年3月に起こった日本での麻

### ダイヤモンド・プリンセス号におけるCOVID-19の集団発生 横浜市、2020年2月

乗客2,666名、乗員1,045名を乗せたクルーズ船で、新型コロナウイルス感染症の集団発生が起きました。712名の感染者が確認され、少なくとも14名が死亡しました。濃厚接触者は、陽性者との最終接触日から14日間、船内隔離されました。また、環境調査の結果、患者の周囲ではトイレ周辺、机、電話機、TVリモコンなどから新型コロナウイルスの遺伝子が多く検出されました。

国立感染症研究所：現場からの概況-ダイヤモンドプリンセス号におけるCOVID-19症例  
国立感染症研究所：ダイヤモンド・プリンセス号新型コロナウイルス感染症事例における事例発生初期の疫学  
国立感染症研究所：ダイヤモンドプリンセス号環境検査に関する報告

### バスツアー関連の新型コロナウイルス感染症の集団発生 北海道、2020年10月

国内各地から3泊4日の北海道周遊バスツアーに参加していた146名とスタッフ12名のうち、19名が新型コロナウイルスに感染しました。  
1名は、人工呼吸器を必要とする重症となりました。  
患者の年齢は、50~80代でした（乗務員1名を除く）。  
ツアー開始19日後まで患者は発生し、職場に感染を広げた例もありました。

国立感染症研究所：IASR Vol.42 p17-19 2021年1月号

塩野義製薬「旅の感染症ナビ」、2023年2月11日アクセス [https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel\\_navi.html](https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel_navi.html)

### シドニー発のクルーズ船で発生した、インフルエンザの集団発生 オーストラリア、2000年9月

乗客1,100名以上、乗組員400名を乗せたクルーズ船で、A型およびB型インフルエンザの集団発生が起きました。インフルエンザの発生状況を調べるために乗客1,119名を対象にアンケート調査を行ったところ、回答が得られた乗客836名のうち、310名（37%）にインフルエンザ様の症状がみられました。そのうちの40名は入院し、2名が死亡しました。

亡くなった61歳の男性はインフルエンザワクチンを接種しておらず、76歳の男性の接種歴は不明でした。シドニーでは、ちょうどインフルエンザ流行のピークでした。

Epidemiol Infect. 2003 Apr;130(2) : 263-71.

### 外国人観光客を発端とした麻疹（はしか）の集団発生 沖縄県、2018年3月

最初の患者は外国人観光客（30代の男性）で、発熱などの症状がある状態で、3日間にわたって沖縄本島内を観光しました。その後、高熱と発疹のために入院し、麻疹と診断されました。

感染は沖縄県内全域に広がって101名の患者が報告された他、県内で感染した人が県外で発症し、東京都、神奈川県で各1名、愛知県では21名の患者が確認されました。

国立感染症研究所：IASR Vol. 40 p53-54: 2019年4月号

塩野義製薬「旅の感染症ナビ」、2023年2月11日アクセス [https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel\\_navi.html](https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel_navi.html)

しん輸入例を発端とする流行では、最初の患者は海外からの観光旅行者でした。訪れた沖縄県で 101 名の患者が報告され、東京都、神奈川県、愛知県などにも感染は飛び火しました。

新型コロナやインフルエンザ、麻疹などのウイルス感染症以外に、細菌による感染症も発生しています。2015 年 8 月、ボーイスカウトの国際イベントで髄膜炎菌感染症が発生しました。北スコットランドからの隊員とスウェーデンからの隊員でした。参加者は 14 歳から 17 歳のボーイスカウト隊員、引率指導者、スタッフなどで、日本からも約 6,000 名が参加した国際的イベントでした。日本では定期接種ではありませんが、髄膜炎菌感染症には予防ワクチンがあります。

2005 年 7 月、キャンプ場の湧き水を原因とした下痢原性大腸菌による食中毒が発生しました。参加した高校生 393 名中 174 名、教職員 16 名中 2 名が下痢、腹痛、嘔吐、発熱などを発症しました。キャンプ場の湧き水から下痢原性大腸菌が検出され、感染源と考えられました。この湧き水は、飲料水に使用できない水質だったのですが、配水箇所に飲用不可の標識がなかったということも指摘されました。

媒介動物による感染症も発生しています。2019 年 9 月、国内の修学旅行でデング熱に感染した事例があります。都内の 10 代学生 3 名が、京都・奈良への修学旅行からの帰宅後に発熱、頭痛、咽頭痛、身体痛、関節痛、吐き気、発疹などを呈しました。3 名とも蚊に刺された記憶はあいまいでしたが、同じクラスのグループとして班行動をとるにありましたが、発症前 1 か月以内の海外渡航歴はありませんでした。

#### **ボーイスカウトの国際イベントで髄膜炎菌感染症が発生** 山口県、2015年8月

世界162の国と地域から約3万名、日本から約6,000名が参加した国際的イベントで、北スコットランドからの隊員3名とスウェーデンからの隊員1名の計4名が髄膜炎菌感染症を発症しました。スウェーデンの隊員では、他に3名の疑い症例も出ました。参加者は14～17歳の隊員、引率指導者、スタッフなどでした。

国立感染症研究所：IASR Vol. 36 p.178-179: 2015年9月号

#### **キャンプ場の湧き水を原因とした下痢原性大腸菌による食中毒** 大分県、2005年7月

キャンプに参加した福岡市内の高校生393名と教職員16名のうち、生徒174名と教職員2名に水様性下痢、腹痛、嘔吐、発熱などの食中毒様症状があらわれました。

病原菌検査の結果、キャンプ場の湧き水から大腸菌が検出され、感染源であると判断されました。キャンプ場の管理会社の水質管理が不適切であったこと、また、生徒たちは飲み水に使用できないことを知っていましたが、配水箇所に飲用不可の標識がなかったことから、安易に飲んでしまっていました。

国立感染症研究所：IASR Vol. 26 p.275-276: 2005年10月号

塩野義製薬「旅の感染症ナビ」、2023年2月11日アクセス [https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel\\_navi.html](https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel_navi.html)

#### **国内の修学旅行でデング熱に感染** 京都府・奈良県、2019年9月

都内の10代の学生3名(男児2名、女児1名)が、京都・奈良への修学旅行からの帰宅後に発熱(39.0℃)、胸部・のど・関節の痛み、頭痛、吐き気、赤い発疹などを発症し、受診しました。3名とも蚊に刺された記憶はあいまいでしたが、血液検査の結果、デングウイルスに感染していることがわかりました。

3名は同じクラスのグループとして班行動をとるにあり、発症前1か月以内の海外渡航歴はありませんでした。

国立感染症研究所：IASR Vol. 41 p94-96:2020年6月号  
東京都：デング熱の国内感染事例について

#### **薬拾いをしていた日本紅斑熱に感染** 山口県、2016年9月

薬拾いをしていた3名が、日本紅斑熱(にほんこうはんねつ)に感染しました。60代の女性と80代の女性は薬拾いから3日後に発熱の症状で、70代の男性は翌日に発熱、咳、下肢の発疹などの症状でそれぞれ受診しました。

80代の女性のみがマダニに刺されたことが確認されました。

検査の結果、3名とも日本紅斑熱と診断されました。薬拾いをしていた付近はマダニの棲息地で、リケツアを保有するマダニに刺された可能性が示唆されています。

国立感染症研究所：IASR Vol.38 p171-172 2017年8月号

塩野義製薬「旅の感染症ナビ」、2023年2月11日アクセス [https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel\\_navi.html](https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/travel_navi.html)

2016年9月には、栗拾いをしていた3名が、日本紅斑熱（にほんこうはんねつ）に感染したという事例があります。60代女性、70代男性、80代女性で、栗拾いの翌日から3日後に発熱、咳、発疹などの症状で受診しています。80代女性はマダニに刺されたことが確認され、日本紅斑熱の原因であるリケッチアを保有するマダニに、3名とも刺された可能性が示唆されています。栗拾いをしていた付近はマダニの棲息地でした。

これまで実際に発生した感染症事例をいくつか紹介しましたが、やはり旅行は大きな楽しみのひとつであり、充実した人生を過ごすためにも、健康に留意したうえでどんどん出かけていただきたいと思います。

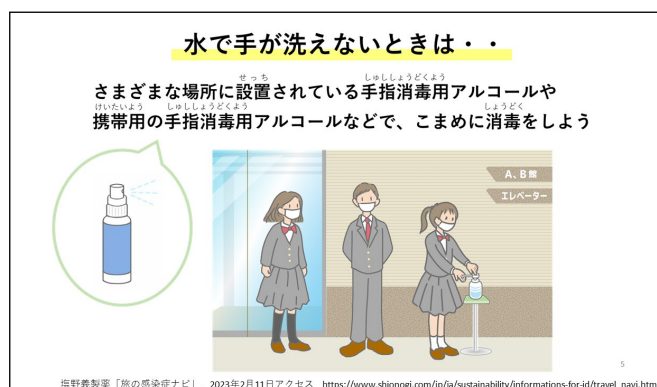
### 旅行時の感染症対策の基本

そのためには、出発前の準備、旅行中の行動習慣など、日常から十分な備えをしておくことがポイントです。中でも手指衛生に気をつけることは、とても重要です。

手は、常に清潔に保ちましょう。食べる前やトイレの後には、必ず手を洗いましょう。ドアノブや手すりなど多くの人がさわる部分にふれると、知らないうちに手に病原微生物が付くことがあります。その手で、知らず知らずのうちに目、鼻、口などの粘膜にふれると、病原微生物が体内に入ってしまう可能性があり、手の清潔はとても重要です。



状況によって手が洗えないときは、施設の入り口など、さまざまな場所に設置されている手指消毒用アルコールを使いましょう。近くに設置がないときは、携帯用の手指消毒用アルコールで消毒します。携帯用の手指消毒用アルコールは、バッグなどに入れて持ち歩くと便利です。



また、混雑を回避することも、感染対策に有用です。観光シーズンや人気スポットへ向かう交通機関は、とても混雑することがあります。出発する前に、密を避けるためにできることを考えてみましょう。混雑状況を確認できるサイトやアプリを利用して、行き先の混雑状況を調べることもできます。

予約が可能な交通機関は、混雑することが少ない時間帯や、空いている車両を選びま

しょう。レンタカーやレンタサイクルを利用する選択肢もあります。目的地へのアクセスを調べて、交通手段がいくつかある場合は、できるだけ密を避けられる行き方を選びましょう。

旅の途中では、駅やバス停が混んで行列しているようなときは、可能であれば便を1本遅らせるとよいでしょう。急いで乗った列車の車両が混んでいれば、空いている車両に移動することも一法です。

飲食店などに入るとき、混雑している場所を避けることも感染対策に有用です。混んでいる時間を避けたり、空いている場所を選ぶようにするなど、工夫をすることで人が多い場所を避けることができます。

春が訪れ、これから日本は行楽に最適なシーズンとなります。感染対策に留意をされて、それぞれのいい旅を楽しんでいただければと思います。



(京都 仁和寺にて演者撮影)